※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

高齢者の交通事故発生状況

令和6年中

1　高齢者事故の発生状況

令和６年中の高齢者（65歳以上の人）が死傷した交通事故は、前年と比較して発生件数及び負傷者数は減少していますが、死者数は増加しました。

死傷者の状態別では、四輪車運転中が約５割（609人中282人。46.3%）を占めて最も多く、次いで歩行中が約２割（132人。21.7%）を占めました。

また、高齢者の死者26人中、歩行中が９人、四輪車運転中及び自転車乗用中が６人でした。

【高齢者事故の発生状況】　（令和６年中）

区　分		発生件数	死亡事故		負傷者数		
			件　数	死者数	重　傷	軽　傷	計
本　年		551	26	26	136	447	583
前　年		595	19	19	167	462	629
増減	数	−44	7	7	−31	−15	−46
	率	−7.4	36.8	36.8	−18.6	−3.2	−7.3

【状態別高齢死傷者数】　（令和６年中）

区　分		歩行中	四輪運転	四輪同乗	二輪乗車	自転車	その他	計
死　者		9	6	2	2	6	1	26
	構成率	34.6	23.1	7.7	7.7	23.1	3.8	100.0
重傷者		62	28	13	12	21		136
	構成率	45.6	20.6	9.6	8.8	15.4	0.0	100.0
軽傷者		61	248	92	10	36		447
	構成率	13.6	55.5	20.6	2.2	8.1	0.0	100.0
死傷者		132	282	107	24	63	1	609
	構成率	21.7	46.3	17.6	3.9	10.3	0.2	100.0

2　高齢者事故の発生推移（基礎データ平成27年～令和６年）

全人身交通事故が10年間で56.1%減少（平成27年8,624件→令和６年3,785件。−4,839件）しているところ、高齢者事故は58.0%の減少（平成27年1,313件→令和６年551件。−762件）となっています。

令和６年は、全交通事故死者の約６割（47人中26人。55.3%）を高齢者が占め、本県の高齢化率（※29.5%）を上回りました。

※　高齢化率＝人口に占める高齢者の割合（令和６年３月31日現在。住民基本台帳より）

区　分		27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年
高齢者	発生件数	1,313	1,245	1,211	1,081	930	742	654	570	595	551
	死者数	30	29	33	27	22	20	24	18	19	26
	負傷者	1,448	1,363	1,303	1,166	1,011	785	701	596	629	583
全事故	発生件数	8,624	7,986	7,491	6,815	5,675	4,487	4,286	4,117	4,033	3,785
	死者数	66	71	51	56	65	44	42	37	47	47
	負傷者	10,913	10,057	9,353	8,509	6,941	5,483	5,182	4,912	4,932	4,565
構成率	発生件数	15.2	15.6	16.2	15.9	16.4	16.5	15.3	13.8	14.8	14.6
	死者数	45.5	40.8	64.7	48.2	33.8	45.5	57.1	48.6	40.4	55.3
	負傷者	13.3	13.6	13.9	13.7	14.6	14.3	13.5	12.1	12.8	12.8

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

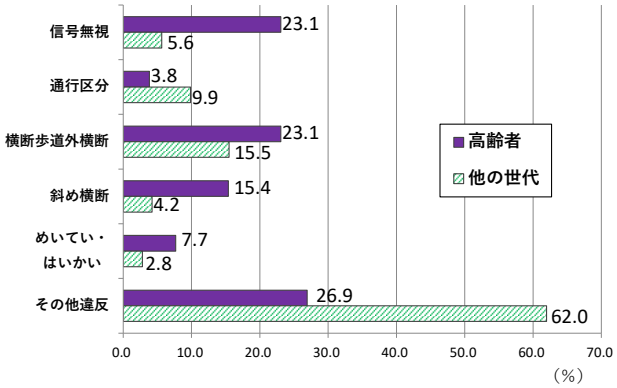
3　高齢者事故の発生特徴等(基礎データ令和6年中)

(1)　歩行中の構成率が他の世代よりも高い

高齢死傷者の状態別で最も多いのは、四輪車運転中（609人中282人。46.3%）でしたが、歩行中についても多く（132人。21.7%）、他の世代の歩行中死傷者（4,003人中388人。9.7%）と比較すると高い構成率となりました。

また、歩行中の高齢者の死傷者132人中26人（19.7%）に何らかの原因が認められ、そのうち信号無視と横断歩道外横断がそれぞれ６人（23.1%）、斜め横断が４人（15.4%）と多くなりました。

【歩行者の原因】

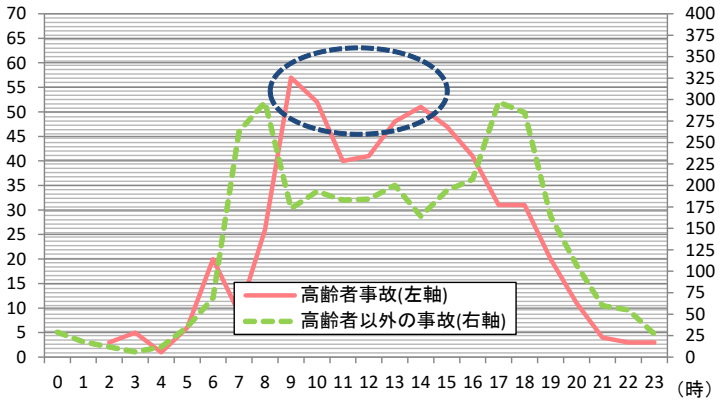


(2)　日中時間帯の発生が多い

昼夜別では、昼間の発生が78.6%（551件中433件）と、他の世代（3,234件中2,306件。71.3%）と割合はほぼ変わらないものの、他の世代よりも日中時間帯に発生が集中しました。

高齢者以外の事故は朝夕の通勤・通学時間帯に多発し、それ以外の日中時間帯は減少したのに対し、高齢者事故は朝の発生は少なく、９時台から15時台の時間に多発しました。

【高齢者事故と高齢者以外の事故の発生時間】



4　過去10年間の高齢者事故の発生特徴

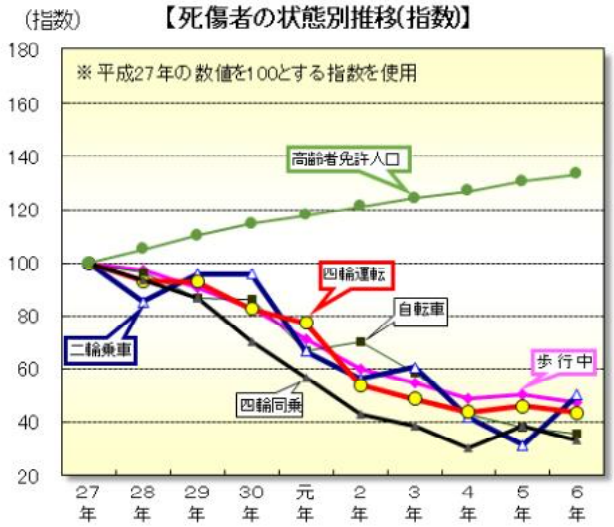
(基礎データ平成27年～令和6年)

(1)　状態別では増減しながら減少傾向

状態別で見る死傷者数は全体的に減少傾向にあります。

四輪車運転中、四輪車同乗中、自転車乗車中及び歩行中の死傷者数は令和６年は前年より減少しましたが、二輪車乗車中の死傷者は前年より増加しました。

【死傷者の状態別推移(指数)】

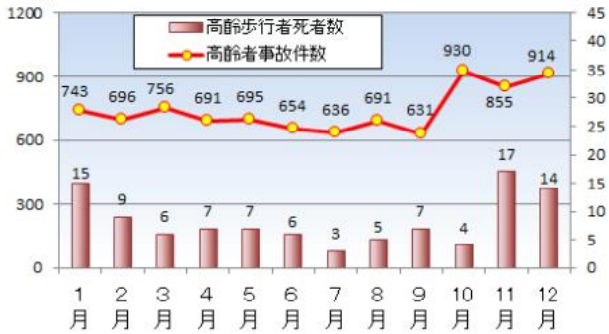


(2)　高齢者事故の月別発生状況

過去10年間の高齢者事故を分析すると、11月以降に多発する傾向にあり、夕暮れ時（日没前後各１時間）に事故が増加する傾向にあります。

高齢歩行者の死亡事故については、日没が早まる頃に増加し、11月がピークとなっています。

【高齢者事故の月別発生件数(H27～R6)】



宮城県警察本部交通企画課